



【東京・地震fax】1F1_SCベント

宛先: [redacted], 天野直樹 様, 太田 聡 様

2011/03/12 01:55

原子力安全・保安院
原子力防災課 天野様、太田様

東京電力の [redacted] です、お世話になります。

題記について、スキャンデータをfaxの代替としてお送りします。

1F 1号機 圧力抑制室ベントの手順書です。

東京電力株式会社
原子力運営管理部 運転管理グループ

Email : [redacted]
TEL : [redacted] 03-6373-1111 (代表)



【東京・地震fax】1F1_SCベント.pdf

操作 順序	操 作 内 容	確 認 事 項	操 作 場 所	確 認
6	S/C ベントラインのラインナップを行う。 (1) S/C ベント弁用空気ポンベ出口弁 (MO-1601-213) 全開 (2) INBD SUPPR CHMBR VENT VALVE (AO-1601-72) 全開	Ⓡ点灯, Ⓞ消灯 "	AM. PNL 903	
7	S/C ベントを開始する。 (1) PCV ベント弁 (MO-210) 25%調整開 a. 弁開度確認不可の場合は、インチング操作で5秒間開とする。(フルストローク 20秒) (ラプチャーディスク破裂圧力: 448kPa) b. 格納容器圧力が急激に下降したら、負圧にならないように PCV ベント弁 (MO-1601-210) を全開する。	Ⓡ点灯, Ⓞ点灯 現場弁開度計 D/W 圧力計 PI-1638 S/C 圧力計 PI-1636	AM. PNL " "	
8	格納容器圧力が上昇する場合は、PCV ベント弁 (MO-1601-210) を増開する。 格納容器圧力が 13.7kPa 以下になる場合は S/C ベントを停止する。 (1) INBD SUPPR CHMBR VENT VALVE (AO-1601-72) 全開 (2) S/C ベント弁用空気ポンベ出口弁 (MO-1601-213) 全開 (3) PCV ベント弁 (MO-1601-210) 全開 尚、それ以前に緊急時対策本部の判断により全閉とすることがある。	Ⓡ点灯, Ⓞ消灯 DRYWELL PRESS/ DRYWELL SUPPR DIFF PRESSURE 記録計 DP/PR-1602-20 Ⓡ消灯, Ⓞ点灯 " "	" 903 " AM. PNL "	
9	ベント操作中に SHC/CCS 系が復旧した場合は、格納容器圧力が抑制できる段階で、S/C ベントを停止する。 *停止操作は操作順序 8 と同様。			
10	ベント操作後は、格納容器内の水素酸素濃度の監視を頻繁に行う。格納容器水素濃度が 10% に到達した場合は、PCV 圧力が 106kPa 以下 (FCS 運転時の制限圧力) であることを確認して、FCS を起動する。 FCS を起動後は、EOP「格納容器制御」(PCV 水素濃度制御) に従い、水素濃度を制御する。	CAMS 水素濃度 10% 以上かつ 酸素濃度 4.5% 以上	CAMS PNL FCS PNL	
11	本操作中、S/C 水位が S/C ベントノズル水没水位 430 cm (LI-1635) まで上昇した場合は、S/C ベントを中止して、2-3-2 項 D/W ベント操作に移行する。 (1) INBD SUPPR CHMBR VENT VALVE (AO-1601-72) 全開 (2) S/C ベント弁用空気ポンベ出口弁 (MO-1601-213) 全開 (3) PCV ベント弁 (MO-1601-210) 全開	Ⓡ消灯, Ⓞ点灯 " "	904 AM. PNL "	

